

## SSH 合宿

新緑香るすがすがしい空気のもと、今年で2度目となる「SSH 合宿」を5月7日・8日の2日間、行いました。SSH 課題研究生徒1年生31名、2年生23名と付き添い教員13名（校長を含め6名が宿泊）それに本校の卒業生9名が参加しました。本会場である本校の同窓会館と視聴覚室での研究活動に加えて、夜は宿泊先の青雲荘で1年生・2年生の親睦をはかりました。

研究活動1日目は、京都大学 喜多 一 教授による講演、昨年度の課題生徒の研究成果の発表など、参加した生徒にとって大いに研究活動への興味が引き起こされる内容となりました。2日目は、本校を卒業した大学院生・大学生から具体的な研究内容や大学生活を紹介してもらいました。後輩に向けての非常に熱のこもった話に、参加した生徒からも活発に質問が出るなど、進路選択に向けて、またこれからの研究活動に向けて有意義な時間となりました。

## 2日間の取組

- 1) 本校教諭による講義・3年生化学1班の発表
- 2) 大学教授（京都大学 喜多 一 教授）による講演
- 3) 2年生課題研究選択生徒によるSSH活動の紹介
- 4) 本校生徒同士の交流会
- 5) 2年生課題研究選択生徒の研究発表
- 6) 大学生・大学院生との交流会

## 成果

合宿の最後に行ったアンケートの設問のうち、「大学教授による講演を受け、科目横断的な総合的な学力の必要性を認識することができたか？」と

「大学生・大学院生との交流によって、科学技術に対する興味・関心を一層喚起することができたか？」

の2点に関しては、ほぼ100%の生徒が「そう思う」と回答しました。また他の設問に対しても、向上したとの回答が大多数を占めており、合宿で設定した目的は達成できたと考えています。

## 生徒の感想

- ・ “科目横断的な学力の必要性” というより “学んでいく上で科目横断をしなければならない” というように思った。1つの学問だけでなく、その学問に関係してくる他のものにも興味を持つことの大切さを知ることができて良かった。
- ・ SSHの活動を通して、幅広い教養と高い専門性を身につけていきたい。
- ・ 考えることの重要性や英語運用能力の必要性がわかった。
- ・ 今回の経験でまた一段とやる気が出て頑張ろうという気になった。
- ・ 研究に対する心構えを学んだ。1つのことに根気よく向かい合うことが大切だと思った。
- ・ 今回の経験でまた一段とやる気が出て頑張ろうという気になった。



京都大学 喜多 一 教授による講演



1年生と2年生の交流会



2年生の研究発表



大学院生との交流



集合写真 本校北館 玄関前 にて